

【高等学校用】

令和2年度学校評価計画

学校名	佐賀県立鹿島高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>鹿島(新鹿島を含む)：進路実現や授業改善に向けた取組は高い評価を得ているが、さらなる改善によって、理解度を高め、より深い思考を可能にする指導が課題である。</p> <p>鹿実(新鹿島を含む)：合格内定100%であった。社会問題への視点の獲得、地域の活性化に貢献できる教育活動の展開、働き方改革の推進が課題である。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	高い志をもち、主体的に道を切り開いていく心豊かで逞しい人を育成する。
----------	------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>① 豊かな人間性や高い志を育む教育の推進</p> <p>② 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の工夫・改善</p> <p>③ 「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」の推進</p> <p>④ 教職員の働き方改革の推進</p> <p>⑤ 校舎制による円滑な学校運営の推進</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の工夫・改善	○意欲的に学ぶことができたと答える生徒80%以上 ○コミュニケーション能力が向上したと答える生徒80%以上 ○専門性あるいは学力が向上したと答える生徒80%以上	・授業を公開し、授業研究会を実施する。(各教科2名以上) ・教員の校外研修への参加を推奨する。 ・各教科の年間指導計画の完遂を目指す。
	○◎キャリア教育の推進に基づく希望進路実現への支援	○将来の目標に向かって挑戦していると答える生徒80%以上 ○志望校合格90%以上 ○就職内定率100%	・3年間を見通した指導計画の実践(家庭学習時間調査・外部講師による各種ガイダンス・進路検討会・面談等) ・学びと経験の記録を蓄積させ、自己のあり方を考えさせる。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学習や体験をとおして、ものの見方や考え方が広がったと答える生徒90%以上 ○自己有用感、自己肯定感が高まったと答える生徒70%以上	・授業、学校行事、部活動等をとおして柔軟で幅広いものの見方や考え方を育む。 ・道徳教育の全体計画を策定し、様々な場面でその趣旨に即した指導を展開する。 ・人権・同和教育に関するホームルーム活動や講演会を行う。 ・地域におけるボランティアへの参加を推奨する。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止の方針にしたがって、組織的対応ができていると回答する教員90%以上 ○いじめは許されないと考えるに基づき行動できたと答える生徒90%以上	・年10回程度のアンケート調査を行う。 ・気になる生徒への声かけを行うとともに、学年会などで情報共有を行う。 ・いじめ体罰等対策委員会により、組織としての対応を迅速に行う。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○健康に食事は大切であると考える生徒90%以上 ○朝食の喫食率90%以上	・家庭・保健の授業及び保健だより等を活用し、正しい情報を提供する。 ・食習慣に関するアンケートを実施し、結果をもとに必要な指導を実施する。
	●安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・講演会や集会等をとおして、危険を回避する具体的方法を身に付けさせる。 ・登下校時等の校外指導を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、学校閉庁日、部活動休養日の設定を行う。 ・衛生委員会等において意見を集約する。 ・各主任を中心に業務削減を行う。 ・個々の職員による効率化のための目標設定を行う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○魅力と活力ある学校づくり	○「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」の推進	○主体的に探究活動に取り組んだと答える生徒を90%にする。 ○物事を分析する力を身に付けたと答える生徒を70%以上にする。	・7分野について講師より課題を提示し、解決策を考えさせる。 ・成果発表会を設定し、プレゼンテーションに取り組ませる。 ・外部評価を聴く機会を設定する。
○校舎制による円滑な学校運営	○職員の相互乗り入れ授業 ○学校行事等における生徒交流	○職員間の連携及び学舎間の移動がスムーズに行えたと回答する職員80%以上 ○校舎を超えた活動に意義を感じたと答える生徒70%以上	・各種会議を合同で行う。 ・校時や行事等については、職員、生徒の移動に配慮し、無理のない計画を立てる。 ・内線電話、学舎間通送、メール会議、オンライン会議等を活用した情報交換や協議等を心がける。 ・学校行事や部活動を合同で実施する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育